

公益財団法人水島地域環境再生財団

平成 25 (2013) 年度事業計画

みずしまの過去をいかし
ずっと環境のよい
しあわせな
まちづくりをめざして

みずしま財団は、設立から 13 年目を迎え、公益財団法人に移行してからは 3 年目の年度を迎える。地域との関係性や、知名度をあげるために多角的に活動をおこなってきたが、成熟期として、この間培ってきたノウハウやつながりを活かして、集中して効果的な事業展開をおこなっていく必要がある。

昨今、PM2.5 を中心とした大気汚染物質に関する報道が増え、市民の大気汚染に対する関心が高まっている。しかし、国外からの越境汚染に重きがおかれ、日本国内での汚染の発生は言及されず、正確な情報提供がなされているとはいえない。

日本において、激甚な公害は、市民・行政・企業の努力により改善されたことは事実であり、そうした経験を国内外に伝え、活かしていく「みずしまプロジェクト」の必要性・重要性はより高まっている。

あわせて、みずしま財団だからこそ伝えられる、情報を市民に提供し、市民の環境リテラシーを向上させていくことも、重要な課題である。

こうした外部要因を的確に把握した上で、国内外で二度と公害を発生させない、よりよいまちを作り出すという、みずしま財団の使命を達するために、2013 年度の事業計画を作成する。

1. 重点項目

「みずしまプロジェクト」の推進

東アジアの大気汚染が注目され、PM2.5 など大気汚染物質への関心が高まる一方で、正確な情報提供が不足している。大学生・留学生等が、地域で学び、考え、対話することで、よりよい環境を創り出していくことのできる人材育成の機会を提供する。

「和歌山 20 周年記念事業」関連事業の実施

3 年後に迎える倉敷公害裁判の 20 周年に向けて、関連事業を行う。

昨年 (2012 年) から始めた資料保存の取り組みについて、2016 年までに関係者への聞き取り、それらを継続させる仕組みづくりや、それら成果を活用した冊子の作成、セミナー、報告会等を個別事業の中で、段階的かつ連携しておこなう。

2. 個別項目

公益目的事業 1 (公 1)

水島の公害経験を活かし、国内外で公害のない、よりよい地域を創造することをめざし、調査・研究・提言活動を実施する。

(1) 調査研究

* 資料保存・活用分野 (15 万)

(独法) 環境再生保全機構サイト「記録で見る大気汚染裁判」リニューアル事業
あおぞら財団からの委託を受けて実施する事業の 2 年目にあたる本年は、引き続き倉敷公害訴訟の資料、患者会等の資料や写真を整理・目録化し、学習素材とすることをめざす。

* 環境保健分野 (490 万)

(独法) 環境再生保全機構予防事業の請負 2 年目にあたる本年は、慢性閉塞性肺疾患いわゆる COPD に対する認知度を高めるために、患者向けおよび医療従事者向けの講習会を実施するとともに、地域の関係主体が連携して、COPD 予防と早期発見ならびに呼吸リハビリテーションの実施に取り組める体制作りについて引き続き検討し、課題を整理する。

* 瀬戸内海の再生分野 (100 万)

岡山県内沿岸自治体で進んでいる海底ごみ回収処理についての実態把握を調査するとともに、よりよい体制の検討を行う。

* 温暖化防止分野 (68 万)

岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の評価分析を昨年引き続き実施する。このことを通じて、企業の温室効果ガス削減のとりくみを後押しする。

(2) 提言活動 (5 万)

調査研究活動等で得られた知見、また研究者やNPO等との連携を活かし、提言活動を行う。(岡山県河川整備検討委員会委員、岡山県環境審議会審議員、国土交通省備讃瀬戸環境修復味野湾部会部員)

公2 (公益目的事業2)

大気汚染公害・環境問題・環境再生・まちづくりに関わる普及啓発・支援事業

水島の公害経験を活かし、国内外で公害のない、よりよい地域を創造することをめざし、公1「調査・研究・提言活動」で得られた知見を活用し、市民や企業、行政、NPO等に学習の場を提供、活動の支援、情報の収集提供をおこなう。

(1) 講師派遣 (20 万)

市民の環境問題に関する理解を深めるため、高校・大学の授業や、公民館等へ講師を派遣する。以下のテーマを中心に、20回の派遣実施をめざす。

* 暮らしと環境・社会とのつながり

「食と環境と交通を考える ～フードマイレージ買い物ゲームを通じて～」

「わたしたちのふるさと海から学ぶメッセージ ～海のごみから考える～」

* 環境と健康

「COPD 予防について ～紙芝居でおはなし～」

「PM2.5 ってなに? ～大気汚染と健康影響～」

* 環境再生・まちづくり

「水島の経験と環境再生・まちづくり ～過去を学び、未来をつくる～」

「環境・まちづくりで働くということ」

(2) 普及啓発（講座・展示）

昨年（2012年）4月に水島にオープンした倉敷市環境学習センターでの学びと交流の場を活用しながら、企画展示、講座開催を行う。

* 自主企画展：既存のパネルを活用して定期的に展示をして、市民に学習機会を提供する。

「地球温暖化を地域から考える」

「まちなかの川ってどんな川？ ～八間川再生をめざして～」

「瀬戸内海的环境再生 海底ゴミ」

* 講座開催：調査研究を通して得られた知見を市民へ伝える機会として、講座を開催する。

（ ）内は助成申請中の申請先および金額

「自転車を活用したまちづくり ～体験講座～」：倉敷総社温暖化対策協議会と連携する。

「環境を守る仕事講座」（助成（KJB）／30万円）：企業の環境技術担当者、環境監視センター職員を講師として招く。大学生向け講座として、連続3回講座として開催する。

「夏休み親子向け講座「調べ学習の方法、教えます」：資料保存事業と連動して実施する。

「教員向け講座「電子化資料を利用した、環境学習の手法」：資料保存事業と連動する。

「フードマイレージ買いものゲーム指導者育成講座」（年賀寄付／50万円）

「流域圏の考え方の普及・啓発～川と海のつながりを学ぶ～」（日本財団助成／175万円）

「漁業体験を通じた海的环境学習」（自然公園財団・子ども夢基金／48万円）

「環境政策講座 ～環境基本計画を学び、育てる会～」：エコらば倉敷と協力して実施する。

(3) 研修・視察

重点項目として位置づけ、積極的に受入を行う。対象に応じた内容で企画・実施する。

* 研修受入（100万）

地域資源を活用し、環境再生・まちづくりを学べる視察・研修の企画・実施を行う。

20機関300名をめざす。

大学生等向けには、プログラムを精査してPR活動を行う。

一般向けには、岡山県観光連盟のメニューに登録してPR活動を行う。

小学生向けには、水島体験ツアーを開催する。（備中県民局協働提案事業申請中）

* 研修の実施（200万）

環境NPO・NGOが、多様な主体とともに事業を展開していく力を高めることを目的にした研修を企画し、地球環境基金の企画提案へ提出し、実施をめざす。

「環境コミュニケーション力を高める講座（仮）」

(4) 支援・連携

* 市民の環境支援

6月の環境月間に実施している倉敷市との懇談会は、今年度11回目にあたる。今年度は、倉敷市内のNPOのネットワーク作りを念頭におきながら、実施する。

* 地域活動・まちづくり支援

水島地域のまちづくりの支援を行う。

* 「過去の資料を活かして、未来をつくる事業」の推進

患者会 40 周年記念として、活動の整理と再評価を行い、発行物に残して見える形にする。

(5) 情報発信・収集（資料館）

調査研究で得られた知見や、水島地域の情報などを発信するとともに、地域、公害・環境に関する資料や情報を収集し、提供する。効果的な方法を模索する。

* 発行物

事業の成果を広く提供するために、海ごみ白書、岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の評価報告書等の発行を行うとともに、寄附者や会員等への情報公開として年次報告書を発行する。賛助会員への情報提供および、地域への情報紹介として、機関紙を発行する。

* コミュニティメディア

地域誌やケーブルテレビ、コミュニティ FM をはじめとしたコミュニティメディアを中心に、情報発信を行う。FM ぐらしきの番組内でのコーナーでは、みずしま財団の活動や環境に関する最新情報や地域情報などを発信する。

* ソーシャルメディア等

サイト・ブログ、facebook、ツイッターの連動により、効果的な情報発信を行う。

* 資料館

所蔵図書 of 整理を継続し、気軽に利用できるような工夫を行う。